

■ 年頭雑感



茂木 昭*

大変厳しい寒さの中ご活躍ご苦労様です。

このところ日本経済は深刻な不況に見舞われて、諸々の景気浮揚対策にもかかわらず、一向に好転のきざしが見えてこない中、PC 業界は順調に推移し、各社ともそれぞれ好業績を挙げています。これは特化された優れた技術力に支えられているためであり、ひとえに PC 技術協会の皆様のご指導、ご支援によるものと厚く感謝申し上げます。

さて毎年、年の暮になりますと、その年の 10 大ニュースの話題が新聞紙上を賑わしますが、平成 7 年は特にいろいろな事件が頻発し、枚挙にいとまがありません。

政治では久しぶりに大型の首長選挙が行われました。既成政党の凋落により、東京は“意地悪爺さんの青島幸男”，大阪は“横山ノックこと山田勇”とタレント知事が誕生しました。また 7 月の参議院選挙は 44.5% という史上最低の投票率となり、新進党が総数で自民党を上回る新しい情勢が生じました。意外な結果に選挙制度そのもののあり方まで云々されています。最近の各党の動きを見ますと、新しい時代に向かって、新旧交代の生みの悩みに苦しんでいる姿が見えますが、早くすっきりしないことには、国民の政党ばなれ、政治不信はつのるばかりでしょう。

経済の面でもバブル崩壊、価格破壊等の新語で氾濫し、円高、株安、土地暴落、銀行破綻、金融不祥事と景気の足を引っ張る事態が次々と発生し、さっぱり回復のきざしが見えません。結局 40 兆円を超えるといわれる不良債権の処理にメスを入れない限り、深刻な不況からの脱出は望めないのではないのでしょうか。

政府も思い切った経済対策として総事業規模 14.2 兆円を赤字国債覚悟で注ぎ込む超大型補正予算に踏み切りました。はじめて真水論議も真剣に戦わされたようで誠に結構なことです。工事ベースで史上最大の 3.9 兆円が計上されました。私達の業界も少しは潤うことでしょう。

この不況の影響で、雇用情勢はますます厳しさを増し、8 月の失業率は 3.2% と近年にない高い値を記録し、完全失業者は 216 万人に増大しました。お陰というと不謹慎ですが 3 K 職場と嫌われ人手不足と賃金高騰の二重パンチに悩まされた私達の職場もちょっと一息つきました。“就職超氷河期”なる気の毒な新語が生まれ、当方は久しぶりに買手市場の贅沢な求人活動ができました。業界にとって優秀な人材を確保する好機といえましょう。

戦後 50 年という一つの大きな節目の年に当たり、諸々の記念行事が行われ、特にアジアの平和、連帯、友好をテーマに活発な意見交換が期待されました。また、私達戦争を経験した世代にとって不戦の決意を力強く表明すべきチャンスでありましたが、様々な特異な事件の勃発により、何か影が薄くなっ

* Akira MOGI : プレストレスト・コンクリート建設業協会副会長、(株)ピー・エス社長

◇寄書◇

てしまったのは残念でした。

おそらく犯罪史上類を見ない狂気の宗教団体オウム真理教の悪業の数々が毎日のように報ぜられ、その残虐さに激しい憤りを覚えました。信者の財産の奪取、坂本弁護士一家虐殺、目黒公証役場事務長拉致監禁・致死、信者リンチ殺人事件、松本および地下鉄サリン事件、毒ガス・細菌・武器製造等々、宗教の仮面を借りた凶悪犯罪を繰り返していたことが次々と明るみに出され、驚愕するばかりです。特に不可思議なことは“血のイニシエーション”“ヘッドギア通電”“熱湯修行”とかによって、いとも簡単に人間改造ができたことと、中でもかなりの高学歴の人達がこんな道に分別なくのめり込んでいったことです。個人の特殊事情によるものか、それとも麻原の魔術がことのほか優れていたためか、いずれにしても由々しい問題であります。

このようにいまだかつてない大きな事件が続発する中でも、特に私達が強烈なショックを受けたのは1月17日未明に発生した阪神大震災です。淡路島北部を震源とする戦後最大のM7.2の直下型地震は、活断層沿いに広い範囲に甚大な被害をもたらしました。5500人を超える死者をはじめ、数十万人の被災者。建物・道路・港湾の損壊、火災による消失。電気・ガス・水道・通信等ライフライン機能の麻痺等、地域は一瞬にして廃墟と化しました。

私は早速当社の関係事業所を中心に被害の状況を見て回りました。関空から淡路島北部、そして神戸から2号線沿いに大阪まで、その惨状についてはすでに各機関で詳しい報告がなされていますので省略しますが、特に気付いた点を2,3挙げますと、

1. 関空のエプロンPC舗装は、隣接のインターブロッキング舗装がかなり被害を受けているにもかかわらず、全く無庇でした。これは版の境に入れたゴムの膨張目地がクッションとして働いたためでしょう。
2. 一般木造家屋で瓦屋根の古い家はほとんどやられていました。これは一般的な強度不足とと思います。本四架橋淡路側の着地点、松保高架橋は震源に最も近く、ポッカーリ開いた地割がその激しさを物語っていましたが、現場事務所の数棟は全く無事でした。物凄い揺れにも倒壊しないヒントがその構造に隠されているようです。
3. 新しい鉄筋コンクリートのビルはほとんどやられていません。これは劣化よりも耐震基準との関係によるものと思います。特にPC建築はその強さが証明されました。このことはもっとPRされてもいいと思います。
4. 高架・橋梁が見るも無残にやられているのには愕然としました。阪神高速神戸線のピルツ構造630mが横倒しになった姿は、大変残念でした。ただよく見ますとPC上部工そのものが損壊したのはほとんどなく、下部工の崩壊によるもの、接続点に問題があるものです。PC建設業協会にかかわる者としてはいささか胸をなで下ろした次第です。

地震の予知予防は現在の技術ではまず困難であります。活断層、プレート、火山噴火型等発生原因が分からない。場所も直下型からはるか沖といろいろあり、いつ、どこで、どんな強さかが全くわからない。そこで私達建設に携わる者としては、いかなる場合でも最低限“人の命”を守るという基本的考えに立つべきです。少々のヒビ、傾き、ズレは勘弁してもらおう。その代わり絶対に一瞬にして倒れる、潰れる、落ちることのない構造物でなくてはならない。ところが、相手は無限大の力を秘めた自然です。力には力の対決では負けるのが当然です。そこでしなやかで粘りのある柔構造。あるいは力をかわす、逃がす仕掛けをどこかに組み込むことが大事ではないでしょうか。

◇寄書◇

今年も大変厳しい難しい年になりそうです。昨年4月に発表された建設産業大綱に「技術と経営に優れた企業が自由に伸びられる競争環境を作る」とあります。協調から競争の時代へ。そして技術の真価が問われる年になります。PC業界はPC技術協会の皆様の技術をベースにして成り立っております。これからもますます研鑽の上よろしくご協力をお願いいたします。